



## 女性研究者支援センター ロールモデル集Ⅲ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-02-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/14796">http://hdl.handle.net/10466/14796</a>

元気！生き生き  
女性研究者・公立大学モデル



元気！生き生き  
大阪府立大学  
オールモデル集Ⅲ

女性研究者支援センター

理事長ごあいさつ

## これからは 女性の活躍が鍵となる

大阪府立大学では、2010年度から文部科学省の支援を受けて「元気!活き生き女性研究者・公立大学モデル」というプログラムに取り組んできました。これは、本学の「多様な人材活用推進の基本方針」に基づくもので、女性がいきいきと研究・教育できる大学は、みんなが働きやすい環境であり、発展するとの考えから具体化してきたものです。

この3年間には、様々な形でこの問題を考えるシンポジウムを開催し、取り組みのシンボリックな保育園を開設しました。また、女性研究者を目指す学生を励ますためにロールモデル（お手本）集を作り、さらに理系を目指す高校生や中学生などに対する活動を展開するために大阪府立大学の女子大学院生によるチーム“IRIS(アイリス)”を結成するなど、学内の連携が見える形で実現してきました。本事業が進んでいることを実感でき、嬉しく思っています。

過日開催されたオープンキャンパスでは、IRISが企画した理系を志望する女子高校生のためのコーナーを開設したのですが、多くの女子高校生が集まりました。大学院生との触れあいの中で、学問することの面白さを知ってくれて、大阪府立大学に進学してくれるととてもうれしいと思います。昔は、理系の学問は男子向きと言われたこともありましたが、最近ではそのような区別は全く無く、本学でも女性研究者は文系にも理系にもおられ、素晴らしい活躍をしておられます。この小冊子を通して知っていただけるロールモデルが、夢を実現させるためのきっかけになってくれることを願っています。

大阪府立大学は、優れた研究・教育を行う大学、学生たちの学ぶ力と個性を伸ばす大学、世界を舞台にして活躍する研究者を育てて地域の信頼を獲得していく大学を目指します。もちろん、そこには男性と女性の区別はありません。ただ、これからの社会を築く上で、女性の活躍がとても重要であると思います。大阪府立大学での女性のますますの活躍に期待しています。



大阪府立大学 理事長・学長

奥野 武俊

*Profile*

大阪府立大学工学部卒、同大学院を修了。1979年同大学助手、助教授、教授を経て、2006年工学研究科長。2007年理事。2009年から理事長・学長。専門は海洋システム工学、海洋環境学、船舶工学。工学博士。



大阪府立大学 人間社会学研究科／地域保健学域 教授  
女性研究者支援センター長

## 田間 泰子

### *Profile*

京都大学大学院博士後期課程（社会学専攻）修了。博士（文学）、専門社会調査士。専門は家族社会学・ジェンダー論。  
熊本大学、大阪産業大学ののち、2005年秋より本学勤務。現在、日本家族社会学会理事、大阪府内で男女共同参画審議会委員ほかを務める。『母性愛という制度』（勤草書房、2001）、『「近代家族」とボディ・ポリティクス』（世界思想社、2006。女性史青井なを賞奨励賞）ほか。



女性研究者支援センター長ごあいさつ

## このロールモデル集を 手にとってくださった皆様へ

大阪府立大学から皆様に、ロールモデル集第3集をお届けします。第1集・第2集に引き続き、魅力的で素晴らしい活躍をなさっている女性たちをご紹介します。

本学は、数多くの人材育成プログラムをもつ教育熱心な大学であり、世界で活躍でき、地域にも貢献できる人々を育てようと尽力しています。その一環として、本学でも、2010年度から文部科学省・女性研究者支援モデル育成事業を開始しました。それから2年半のうちに、たくさんの学内外の素晴らしい方々にお目にかかることができました。2012年度はその最終年度となりますので、この第3集は、冊子体で発行するロールモデル集としてはおそらく最後となります。

この事業は、文部科学省の科学技術振興のための人材育成政策によるものですが、同時に政府の男女共同参画政策にも基づいています。今、日本社会における科学技術は女性たちの参画によらなければ、伸びてゆくことはできません。それでこそ、社会全体も、より素晴らしいものとなるでしょう。本学では、女性たちの素晴らしい活躍が、男性たちの活躍とともに可能になるよう支援していきたいと考えています。

第3集は、本学所属の研究者とともに、この支援事業にロールモデルとしてお力添えをいただいた本学以外の方々をご紹介します。そのメッセージは、きっと皆さんの心に響き、励ましてくれるものとなるでしょう。

しかし、もちろんロールモデルとなる女性たちはこれに尽きることはありません。本学にも、また日本社会にも世界にも、生き生きと活躍する女性が大勢おられます。皆さんが、素晴らしいロールモデルに出会えるよう願っています。



# Contents

- 2 理事長ごあいさつ
- 4 女性研究者支援センター長ごあいさつ

## 【ロールモデル】

- 8  **高野 桂**  
(大阪府立大学  
大学院生命環境科学研究科 獣医学専攻／生命環境科学域 獣医学類 助教)
- 10  **中澤 昌美**  
(大阪府立大学  
大学院生命環境科学研究科 応用生命科学専攻／生命環境科学域 応用生命科学類 助教)
- 12  **加藤 希理子**  
(大阪府立大学  
大学院理学系研究科 情報数理科学専攻／高等教育推進機構 准教授)
- 14  **竹田 恵美**  
(大阪府立大学  
大学院理学系研究科 生物科学専攻／生命環境科学域 自然科学類 講師)
- 16  **西野 貴子**  
(大阪府立大学  
大学院理学系研究科 生物科学専攻／生命環境科学域 自然科学類 助教)
- 18  **細越 裕子**  
(大阪府立大学  
大学院理学系研究科 物理科学専攻／生命環境科学域 自然科学類 教授)
- 20  **森 展子**  
(大阪府立大学  
大学院理学系研究科 生物科学専攻／生命環境科学域 自然科学類 教授)
- 22  **中谷 敬子**  
(大阪府立大学  
工業高等専門学校 総合工学システム学科メカトロニクスコース 准教授)
- 24  **染谷 ゆみ**  
(株式会社ユーズ 代表取締役社長)
- 26  **宮崎 陵子**  
(シャープ株式会社 CS・環境推進本部 品質技術部解析技術 Gr. 副参事)
- 28 女性研究者支援センター事業紹介
- 30 女性研究者支援事業のこれからに向けて



大阪府立大学  
大学院生命環境科学研究科獣医学専攻/  
生命環境科学域獣医学類  
助教

**高野 桂** 博士(薬学)

*Profile*

【学歴】

富山県立高岡高等学校 ▶ 金沢大学薬学部  
薬学科 ▶ 同大学院自然科学研究科博士前  
期課程生命薬学専攻 ▶ 同博士後期課程生  
命科学専攻

【職歴】

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣  
医学専攻 助教

## 専門分野の中で 「～の研究の人」と認識される ような研究成果を出したい

薬学部に入り、卒業研究で実験すること自体が楽しいと思うようになりました。今はアルツハイマー病などの脳疾患のメカニズム解明など、学生時代の研究に近い内容の研究を継続しています。

### *My favorite*



【カエルグッズ】

写真は傘立てとマグネットですが、他にもいただき物も含めて抱き枕や置物などがあります。本物のカエルもグッズも、アマガエルが一番気に入ります。

# Personal History

## ● 学生時代 (～2007)

## ● 社会人時代 (2007～)

～2002  
金沢大学  
薬学部  
卒業

～2004  
金沢大学大学院  
博士前期課程  
修了

2006  
金沢大学21世紀COEプログラム  
「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」大学院生研究奨励賞  
受賞

～2007  
金沢大学大学院  
博士後期課程  
修了

2007～  
大阪府立大学  
助教

### ● 学生時代

小・中学校時代は、体育と図工、美術が大の苦手であること以外、特に授業科目の得意・不得意を意識したことはありませんでした。

高校受験が近づいた時、たまたま受験する予定だった高校の理数科が、前年度から一部推薦入試を導入しており、担任の先生からお誘いを受け、「ダメだったら一般入試で普通科を受験すればいい」と軽い気持ちで推薦入試を受けたところ、合格したのが、理系選択の最初でした。入ってみると、理数科は学年に1クラスで3年間メンバーが変わらないこと、また理数系の科目に関して、理数科だけの合宿形式の課外実習や数人のグループに分かれての課題研究などがあり、結束力が高く、普通科からは若干、特別視されるような集団でした。医師を目指す同級生が多かったこと、生物系の授業や実習が面白かったこと、父親が製薬企業のMR\*をしていたことなどから、大学受験の時点では、理系の中でも薬学部を目指すようになりました。

薬学部が4年制から6年制へと変遷する時期だったため、入学した時点から博士前期課程までは進学しようと考えていましたが、学部4年の時に卒業研究のために所属した研究室生活で、実験すること自体が楽しいと思うようになり、博士後期課程に進学することを決断しました。

※ Medical Representative : 医薬情報担当者

### ● 社会人時代

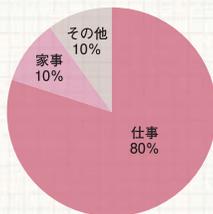
大学の博士前期・後期課程の時点では、薬学部の研究室に所属しながら医学部との共同研究に参画しており、研究・実験をやること自体が楽しく、これが続けばいいなという漠然とした思いがありました。実際に大阪府立大学の助教の職に就くことになったのは、博士後期課程の3年の時に、私が学部4年の時に所属していた研究室の助教授であった、現所属先の中村洋一教授に声をかけていただいたことがきっかけです。卒業研究を指導していただいた先生ということもあり、アルツハイマー病などの脳の疾患のメカニズム解明や、脳を構成する細胞の1つであるグリア細胞の機能解析など、学生時代に行っていた研究に近い内容の研究を継続することができています。

所属していた研究室の方針もあり、学生時代から数多くの学会に参加して発表を行ってききましたが、「米田幸雄教授の研究室の…」という枠組みに助けられている部分も多かったように思います。教員となって独立した研究者として認めてもらうためには、論文ももちろんですが、学会などで自らの「顔売る」必要があります。博士後期課程在学中には毎年1回は行っていた海外の学会に、最近は行けていないのが残念なところです。

## Work Life Balance

まだ結婚していないこともあり、ワーク・ライフ・バランスを考えたことはありません。大学4年の時の研究生活スタート以降、扱っているのが細胞や動物などの生身のものということもあり、実験のスケジュールを第一に考えた生活を送っています。

教員となってからも基本的なスタイルは変わりません。ただ、地元から離れたところに就職したため、連休などには実家に戻り友人たちと会うことが、学生時代より多くなりました。医師や薬剤師、教員として仕事を継続しながら、結婚・出産・子育てもしている友人もいれば、仕事や研究のみの友人もいます。金子みすゞの「みんな違ってみんないい」ではないですが、人との比較はせず、その時々で、自分がやろうと思ったことをやるのみです。



### 将来の目標・夢

研究者として、楽しみながら実験を続けることができればいいと思います。そして、専門分野の中で、自分の名前前で「～の研究の人」と認識されるような研究成果を出せるようになることが目標です。

### 後輩へのメッセージ

結婚していない私が言うのはおかしいのですが、周囲をみると、民間企業よりも公務員や大学研究者のほうが、結婚・出産のための周囲の環境が整っているように思います。女性だからといって冷遇・優遇されるということではなく、男性と同じ立場で競うことが求められる、競うことができるのが研究者という職業という気がしています。

自分が考えたことや、不思議に思ったことを、  
自らの手で明らかにしていきたいける仕事は  
アカデミア以外にない！

研究室は、環境問題への興味から、生物資源循環工学研究室でミドリムシを材料として  
研究を始めました。科学技術振興機構の「さきがけ」に採択していただき、研究補助員  
の方や学生のみならず研究漬けの日々を過ごしています。

### My favorite



#### 「スポーツ」

研究の合間に、昼休みを利用した学科のソフトボール大会に参加させてもらっています。キャッチボールも大好きです。ハンドボール経験が生まれました。ただし、練習不足で最近はあまり上達していません、残念。



大阪府立大学  
大学院生命環境科学研究科応用生命科学専攻/  
生命環境科学域応用生命科学類  
助教

中澤 昌美 博士(応用生命科学)

#### Profile

##### 【学歴】

帝塚山学院高等学校 ▶ 大阪府立大学農学部(飛び級のため中途退学) ▶ 同大学院農学生命科学研究科応用生命科学専攻博士前期課程 ▶ 同博士後期課程(助手任用のため中途退学)

##### 【職歴】

大阪府立大学大学院農学生命科学研究科応用生命科学専攻 助手 ▶ 同生命環境科学研究科応用生命科学専攻 助教 ▶ 大阪府企画調整部企画調整室 科学・情報課(兼任) ▶ 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業さきがけ 兼任研究者

# Personal History

## ●学生時代（～2001）

～1998  
大阪府立大学  
農学部  
(飛び級のため)  
中途退学

～2000  
大阪府立大学  
大学院  
博士前期課程  
修了

～2001  
大阪府立大学  
大学院  
博士後期課程  
(助手任用のため)  
中途退学

## ●社会人時代（2001～）

2001～  
大阪府立大学  
助手

2005～  
大阪府立大学  
助教

2002～2003  
大阪府  
企画調整部  
(併任)

2006  
結婚

2011～  
科学技術振興機構  
さきがけ  
兼任研究者

### ●学生時代

私の科学者ゴコロの芽生えは、理科の授業がすべて実験室で行われていた小学校高学年でした。実験結果を予想し、議論を行ってから、実験で検証する、という授業を2年間経験し、理科って面白い、と思うようになりました。高校は女子校で、理系選択者は5%程度でしたが、生物がとても好きだったこと、化学にも興味があったことから理系を選択しました。環境問題に興味があり、バイオテクノロジーを使って環境問題にアプローチできる分野に進学したいと考えていました。そして、農芸化学科を前身とする、本学の応用生物化学科（現：生命機能化学科）を志望しました。

入学当初は自分の中で「高校生物」と大学での学びにギャップがありました。しかし、徐々に化学を基盤として生物を知るスタンスの重要性を感じ、無知な自分の少しの勘違いにむしろ感謝しました。ほぼ毎日実験・実習があったことも、自分に合っていました。部活はハンドボール部に所属し、体育会らしい大学生活も楽しみました。

研究室配属では、環境問題への興味から、宮武教授の生物資源循環工学研究室へ。ミドリムシを材料として研究を始めました。ドクター進学の際は、企業への就職とも悩みましたが、「自分が考えたことや、不思議に感じたことを、自らの手で明らかにしていける仕事はアカデミア以外にない!」と思ったことが決め手となりました。

### ●社会人時代

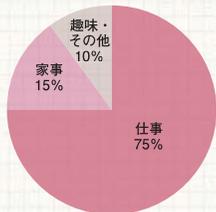
縁あってドクター2年目の10月に所属研究室の助手に採用していただき、現在に至っています。採用半年後には、大阪府に行政職として1年間、週3日併任勤務を行う経験もしました。企画調整室の科学・情報課で、大阪のバイオサイエンス振興戦略に関する仕事をさせていただいていました。大学の業務とは全く異なったため研究時間が削られてマイナスだ、という意見を持つ方も周囲には多かったのですが、このとき得た「人のつながり」は今でも続いており、私自身とても感謝しています。

教員になるまでは近道させていただいた私ですが、博士の学位を取得しないまま教員になり、論文博士の取得まで約10年、とても遠回りしてしまいました。周囲の方々にたくさんのご迷惑やご心配をおかけしたと思います。学位取得直後に教授が定年退職されて、研究の方向性や研究費の獲得について悩んでいたタイミングで、幸運にも科学技術振興機構の「さきがけ」に採択していただき、ミドリムシの遺伝子組み換え系の開発やバイオ燃料への利用に関する研究を進めさせていただいています。ミドリムシを活用して、二酸化炭素放出を抑制する「カーボンニュートラルなバイオ燃料」を創り出すことを夢みて、研究補助員の方や学生の人々と研究漬けの日々を過ごしています。

## Work Life Balance

6年ほど前に結婚してから、実家通いのころに比べて、帰りが少しだけ早くなりました。同じ分野出身の主人の理解と協力のおかげで、超「職住近接」で過ごしています。生物を扱う研究ですので休日出勤もよくありますが、家事の合間に大学に来ることができる、という距離感です。

あまりワーク・ライフ・バランスの参考にならない働き方かもしれません。今後妊娠・出産など際に、さらに自分の働き方を見直す必要が生まれると思います。身の回りにほとんど実例が無いので、自分が試行錯誤することが、結果的に下の世代への参考になれば良いと思います。



### 将来の目標・夢 Dream

サイエンスの面白さを感じる心を忘れずに研究を続けていけたらうれしいです。

### 後輩へのメッセージ Message

自分が様々な選択をするときに心がけていることは、「何かをしなかった後悔より、何かをやった後悔なら許せる!」ということです。リスクを自分で引き受ける覚悟ができるなら、何でもやってみたらいいと思っています。飛び込んでからは「何とかなさ」の楽天主義です。この気楽さは女性ならではのかもしれませんが、誰もがこの考え方をするのは無理があるかもしれませんが、恐れるくらいなら飛び込んでみては?と思います。



大阪府立大学  
大学院理学系研究科情報数理学専攻/  
高等教育推進機構  
准教授

加藤 希理子 博士(理学)

Profile

【学歴】

東京都立小石川高等学校 ▶ 京都大学理学部 ▶  
同大学院理学研究科数理解析専攻修士課程  
▶ 同博士課程

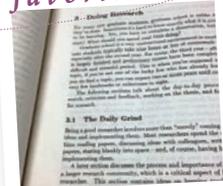
【職歴】

日本学術振興会特別研究員(DC2) ▶ 立命館大  
学理工学部助手 ▶ 京都大学総合人間学部非常  
勤講師 ▶ 明治大学理工学部非常勤講師 ▶ 大阪  
女子大学理学部助教授 ▶ 大阪府立大学大学院  
理学系研究科情報数理学専攻 准教授(大学  
統合のため)

私が数学者であることは  
家族にとっても重要なので、  
研究を怠るようなことがあっては  
責任が果たせないと考えています

若いころの「難しい問題が解けたときの爽快感」から「どうなっ  
ているのか、知りたい」気持ちで研究を進めるようになりました。  
学生時代に私を支えてくれたのは、友人たちでした。

My favorite



『Marie desJardins “How to be  
a good graduate student” .』

アメリカから数理解析研究所に来てポスト  
ドクをしていた友人がプリント・アウトをく  
れて、学生時代は何度も読みました。  
今でも [http://www.cs.indiana.edu/how.  
2b/how.2b.html](http://www.cs.indiana.edu/how.2b/how.2b.html) で入手可能です。(2012  
年11月現在)

# Personal History

## ● 学生時代 (～1996)



## ● 社会人時代 (1995～)



### ● 学生時代

育った家庭は、父がドイツ哲学の研究者、母が英語の教師ですから、有り体に言えば「文系」です。しかし、一人前の社会人たるには、自然科学も人文科学、社会科学も理解していなければならないというのが両親の考え方でした。偏りなく勉強を進め、特に数学が面白いと思ったので、大学は理学部を選びました。今でも、理系・文系という言葉には違和感を覚えます。メンデルの法則や電磁誘導を知らないのは、関ヶ原の戦いを知らないのと同じくらい、社会人として恥ずかしいと思いませんか？ エネルギー問題、領土問題…人間の営みを適正に続けて行くためには、善意だけでは役に立たないのです。

研究者を目指す人にとって、学生時代は、自分に適性があるか、就職先があるか、常に問い続けることになり、試練の時です。その時代に私を支えてくれたのは、友人たちでした。数学の場合、ずっと家にいても研究できますが、私は学校で勉強するほうでした。大学院を過ごした数理解析研究所では、大学院生の部屋は学年も専門も分散して割り当てられました。朝から論文とにらめっこしていると、コンピュータ室から一仕事終わった人が来て、一緒に音楽を聴いたり、できないあと唸っていると、専門は全然違う人が、説明してみなよと声をかけてきたり、にぎやかな院生室でした。当時は私が唯一の女子大学院生でしたが、外国からのポスドクの中には女性もいて、一緒にご飯を食べに行ったりは女性研究者ならではの話題で盛り上っていたものです。また、大学入学後すぐに入った自主ゼミは、チューターの先輩が非常に厳しくて、よく徹夜で勉強しました。お蔭でゼミ生の結束が固くなり、当時の仲間とは今でもきょうだいのような付き合いです。

### ● 研究について

専門は、環論という代数学の一分野です。学生時代から、コーエン・マコーレイ加群というベクトル空間のようなものを研究していて、それをうまく捉える方法を模索中です。ここ数年は、トポロジーの手法に興味を持っています。トポロジーというのは、ポアンカレという人が代数的な道具を幾何学で使えるように思いついたアイデアなので、それが逆に代数学に使えるとは、奥が深いですね。

数学の魅力についてお話しすると、若いころは、難しい問題が「解けるからスカッとする」爽快感がたまらなかったのですが、最近は、むしろ「どうなっているのか、知りたい」気持ちに動かされて研究を進めるようになりました。自分では精神的成熟の結果と信じていますが、実は、問題が難しいので、そんなにすぐに解けないという事情もあります。建築家ガウディは、自然は芸術の師だという見解を持っていたそうですが、美しい数学も、自然なものから生まれるのではないかと私は思っています。

## Work Life Balance

夫はアルゴリズムの研究者です。研究者としての苦勞や喜びは解りあって、細部は問わないという意味では、理想的かも知れません。100%が自分の時間だった学生時代に比べると、仕事・家庭を抱えて時間が足りないなあと思うのは事実です。でも、良い母や妻でいることは、熱心な教師、優秀な研究者でいるのと同じくらい大切ですから、こどもの学校の話や聴くのも、夫と取りとめのないことを話すのも、無駄な時間とは思いません。逆に、私が数学者であることは家族にとっても重要なので、研究を怠るようなことがあっては、責任が果たせないと考えています。

### 将来の目標・夢

目先のことに追われる毎日ですが、生涯のうちに、量子力学とラテン語を勉強するのが目標です。掛軸にある漢文の賛も、すらすら読めるようになりたいですね。

### 後輩へのメッセージ

若いころの自分の研究を振り返ると、時間をかけて随分能率の悪いことをしていたなと思うことがたくさんあります。手探りで一步一步進んで行くと、結局、既知の定理に辿りついたりして、自分の独創的研究のつもりだったのに、そうだったかどがっかりする。でも、自分だけの視点を得るには、やはり欠かせないプロセスだったと思います。迷うのも立ち止まるのも、研究には必要なこと。成果だけに捉われずに、あなたも頑張ってください！

研究者として、母として、  
ひとりで多様な人生を送れることは、  
大変ですが幸せなことだと思っています。  
助手になってから、研究室の方々や家族に支えられ、何とか博士号を取得で  
きました。研究を続けるほど勉強不足を実感し、新しい疑問がわいてきます。  
いつか自分の研究が世の中の役に立つことを願っています。

### My favorite



【ハーブティー】  
リラックスしたいとき、集中したいとき、  
気分を変えたいとき、その時の気分で、  
ブレンドを楽しんでいます。

大阪府立大学  
大学院理学系研究科生物科学専攻/  
生命環境科学域自然科学類  
講師

竹田 恵美 博士(農学)

#### Profile

##### 【学歴】

大阪府立大手前高等学校 ▶ 大阪市立大学理学部生物学科 ▶ 京都大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程 ▶ 同博士後期課程 (助手任用のため中途退学)

##### 【職歴】

大阪女子大学学芸学部基礎理学科 助手 ▶ 大阪府在外研究員 (米国バドュー大学客員研究員) ▶ 大阪女子大学学芸学部基礎理学科 講師 ▶ 同理学部環境理学科 講師 (改組のため) ▶ 大阪府立大学大学院理学系研究科生物科学専攻講師 (大学統合のため)

# Personal History

## ● 学生時代 (~1989)



## ● 社会人時代 (1989~)



### ● 学生時代

一人っ子で両親が共働きだったので、家で一人で過ごすことが多く、マイペースな子どもでした。小学校では、担任が理科の専門の先生だったので、例えば水の沸騰の実験では、水蒸気を集めて冷却して貯めた蒸留水を飲んだりなどといった、教科書に載っている以上の「実験楽しい!」という経験をたくさんさせてもらったことから、将来は理系の研究者になりたい、と子どもなりに考えるようになりました。中学・高校と進学してもその気持ちは変わりませんでした。同時に、女性が研究者になることの大変さもわかってきました。大学の進学先を決めるときも、生物学をやりたいけれど、就職を考えると医歯薬系の国家資格の取れる学部の方が良いのではないかと悩みました。しかし、最終的には、やりたいことをやろうと生物学科に進学しました。

学部では、サークル活動で野山を歩きまわり、また生物大好きな個性的な級友たちの刺激を受けながら、大いに遊び学んだ3年間の後、卒業研究のために植物生理学の研究室に入りました。そこで初めて実際の研究への取り組み方や研究者の生活について知り、改めて研究者への気持ちが湧き、大学院に進学しました。当時はバブル景気の真っ最中で、修士課程修了後、企業へ就職する道もありましたが、自分の研究を続けるために博士後期課程に進学しました。

### ● 社会人時代

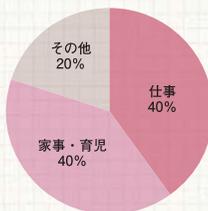
大学院博士後期課程では修士課程からの研究を続けていましたが、2年で中退し、大阪府立大学と統合される前の大阪女子大学の助手に着任しました。助手になれたことは大変幸運だったのですが、大学院での研究は中途半端なままでした。そのため、平日は大阪で学生実験や卒業研究などの指導をし、週末には京都で実験をするという生活が続きました。体力的には大変でしたが、研究室の方々や家族に支えられ、数年後に何とか博士号を取得することができました。その後、大阪府の在外研究員として米国のパデュー大学に1年間留学しました。パデューの研究室には、当時、8カ国の研究員や院生が在籍していましたが、国籍は違っても研究者としての本質は変わらないと感じました。大阪女子大学は、規模は小さいながら理系でも女性教員の割合が高く、様々な先輩から女性研究者としての生き方を学ぶことも多かったです。

その後、大阪府立大学と統合され、現職に就きました。現在は、植物が好ましくない環境のもとでどのように生き抜くのか、特に光合成機能に注目して研究しています。光は光合成に不可欠ですが、強すぎる光は植物に障害をもたらすストレスとなります。このようなストレスに打ち勝つためのしくみを研究する中で、いつか自分の研究が世の中の役に立つことを願っています。

## Work Life Balance

もともと複数の物事をバランスを取りながら、同時に進めるのが苦手でした。

学生時代は、研究を含め、自分のやりたいことで1日が埋め尽くされていたのが、就職してからは、教員としての仕事と自分の研究のバランスを取る必要に迫られ、なかなかうまくいかずストレスを感じることも多くありました。結婚して、子どもが生まれてからは、さらに子育てが加わり大変でしたが、私の場合、保育所と実家で子どもを預かってくれたおかげでやってこられました。研究者の夫は、平日は単身赴任で週末だけ帰宅しますが、在宅時は家事は分担してこなしています。やはり家族の協力と職場の理解は欠かせません。仕事と家事・子育てで目一杯な毎日ですが、研究者として、母として、ひとりで多様な人生を送れることは、大変ですが幸せなことだと思っています。



### 将来の目標・夢

研究を続けるほど、勉強不足を実感し、新しい疑問がわいてきます。自分の疑問を解決するための研究に終わりはないのですが、いつかは、間接的にでも、世の中の人に役に立つことに繋がるような研究ができれば、と思っています。

### 後輩へのメッセージ

博士の学位授与式のとき、総長の祝辞の中で、「研究者に必要な資質のひとつは楽観的であること」と言われたことが心に残っています。学部を選ぶとき、博士後期課程に進むとき、将来、就職があるのだろうかや悩み、結婚して子どもができて研究を続けられるのだろうかや悩み、新しい実験がうまくいこうかと常に悩み続けてきましたが、簡単ではないけれど何とかなさ、と楽観的に考えてやってきました。失敗も良い経験になります。やりたいことがあるなら、まずは挑戦してほしいと思います。



大阪府立大学  
大学院理学系研究科生物科学専攻/  
生命環境科学域自然科学類  
助教

**西野 貴子** 修士(教育学)

*Profile*

【学歴】

新潟県立新潟高等学校 ▶ 新潟大学教育学部  
教員養成課程 ▶ 同大学院教育学研究科教科  
教育専攻理科教育専修

【職歴】

大阪府立大学総合科学部(現理学部) 助手 ▶  
同大学院理学系研究科生物科学専攻 助手 ▶  
同助教

## 研究が展開していく愉しさを、 研究室の学生と共有することを 大事にしています

学校の先生になりたいと大学を選びましたが、植物分類学の講義で考えることにわくわくし、生物の研究へ。「知ることは楽しい」を原動力に、学生と一緒に研究を進めるスタンスで、ここまで来ました。

### *My favorite*



【好きなものいろいろ】

バロックやルネサンスの音楽。合唱は下手の横好きで細々と継続中。料理は食べるのも作るのも、そして調理道具も好き。美術館や博物館巡り、推理小説、車の運転、PEANUTS、ネコ、日本の古道具。何ひとつ極めないままですが。

## ● 学生時代（～1994）

～1991  
新潟大学  
教育学部  
卒業

～1994  
新潟大学大学院  
修士課程  
修了

### ● 学生時代

部屋で遊ぶのが好きなインドア派の子どもでした。父の影響で、小学校のときには理科の先生になると決めていました。生き物が苦手なのに、高校では不純な動機で生物部。博士号をお持ちの少し風変わりな先生が、生徒といっしょにイトヨという魚の研究をされており、毎日、授業以外は入り浸って、先生や先輩とイトヨの水槽の傍で遊んでいるうちに、生物が面白くなりました。

大学の選択は教師になることが第一で、入学してすぐ自主ゼミに入って理科教育を勉強するほどでしたが、その目標を1年で手放しました。その頃、植物分類学の講義を受け、知らないことばかりで、質問ついでに考えることにわくわくしました。後にその先生の研究室に入りましたが、大学院卒では将来の職はないと言われていたので、進学はかなりの覚悟でした。

大学院では、家で寝る以外は研究室漬けでした。実験や調査のほか、生物や物理の先生と研究や学問だけでなく、政治、世界情勢、思想、世間話まで、多くの事柄について議論し、背伸びをしながら大きな刺激と影響を受けました。学会だけでなく、標本調査や実験手法の習得のため他大学に度々出かけ、関係者の知己を増やしました。修士1年のときに他大学の先生の北米の調査に同行させていただき、3ヶ月間、海外の研究所も体験しました。地方にいながら世界を広げることができたのは、指導教授のおかげだと感謝しています。

## ● 社会人時代（1994～）

1994～  
大阪府立大学  
助手

2007～  
大阪府立大学  
助教

### ● 社会人時代

研究は実験室で行うだけではなく、植物の採集・調査のために外に出かけ、生きている様子を実際に見ます。どうしてこの植物はこの場所に存在するのか、どのように生活しているのか、どういう道筋をたどってこの種になったのか、そういった種分化という進化の過程と適応のメカニズムについて、植物を材料に探求するのが私の研究です。理由づけを考えるうちに仮説が浮かんだときの高揚感はありません。そして仮説を立証するために野外調査や実験室での分析を行い、結果に一喜一憂します。少しずつでも研究が展開していく楽しさを、研究室の学生と共有することを大事にしています。

けれども、ここにくるまでには長い暗黒の時間がありません。

修士論文をまとめる頃、本学の総合科学部助手への誘いがあり、家庭状況に余裕もなかったので飛びつきました。ところが、その年の研究費も、必要な実験機器も、研究テーマの手持ちもなく、指導教授もいない状況で、研究はやがて停滞しました。孤立感や焦燥感、身体の不調も出てきて、研究室に行くのさえ苦痛になっていました。そんな中でも自分がやりたいと思っている研究だけは、あきらめることができませんでした。

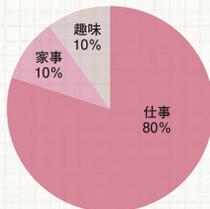
数年前に、とあるきっかけで、ようやく精神的な呪縛から自分を解放させることができ、挑戦する楽しさが急に戻ってきて、今はやりたいことが溢れています。学生と一緒に研究を進めるスタンスに変えたことが、転換点だったと思います。

## Work Life Balance

仕事を辞めて大学院からやりなおそうかと考えたこともあったのですが、どういうときでも研究をやめたいとは思いませんでした。結局は研究を仕事にできることが幸せなことだと思っているので、器用に複数のことをこなせない性分を考えると、ライフイベントとの両立はできませんでした。

失った時間は取り戻せませんが、これからの中身を濃くすることはできるはずだと思って試行錯誤の挑戦中で、今はその挑戦が楽しいときです。

平日は仕事に時間をかけます。時間をかけないとエンジンが掛からない質なので無駄な時間も多ですが、一旦、エンジンが掛かると長時間耐久はあまり苦になりません。その分、休日は好きなことだけをやって充電します。一日中、多種多量の料理を作ったり、読書三昧というぐうたらだったり。または趣味の合唱だったり、友だちとかけたり。なるべく仕事一色の平日と休日のメリハリがつくようにしています。



### 将来の目標・夢

多様な野生植物のさまざまな種分化の実態を描き出し、その進化の機構を詳らかに説明する例をひとつでも多く明らかにしたい。「知りたい」と思うことが自然界には溢れていて、知れば知るほどさらに知りたいことが増えてくる。そんな探求することの楽しさを学生に伝えたいし、その楽しさとともに自然の貴重さを次世代に伝える人材を育てたい…野望は果てしないものです。

### 後輩へのメッセージ

このロールモデル集のお話をいただいたとき辞退を考えました。私の現状は、将来に希望をもつ例ではなく、今はまだ失敗例だと思っているからです。ですが、諦めずに挑戦し続けるという自分自身への決意表明としてお受けしました。諦めてしまえば失敗という終わりですが、挑戦していれば道は続くと思っています。回り道あり、迷子ありですが、失敗も糧にするぞと思って挑戦を諦めない人生でありたいと思います。こんな私でも「知ることは楽しい」、それが原動力です。

「新しい物質が新しい科学を拓く」という信念で、新物質合成に力を入れ有機磁石の物理を研究しています

大学では化学を学び、今は物理の分野で研究を続けています。遠距離での結婚生活、出産を経て、研究室を主宰していますが、周囲の協力は欠かせません。

### My favorite



#### 『ガーデニング』

我が家の緑のカーテンのへちまに花が咲きました。へちまときゅうりを育てたのも、写真を撮ったのも夫です。私は日々の生活に追われていますが、夫は相変わらず多趣味です。

大阪府立大学  
大学院理学系研究科物理科学専攻/  
生命環境科学域自然科学類  
教授

細越 裕子 博士(理学)

#### Profile

##### 【学歴】

東京都立富士高等学校 ▶ 埼玉大学理学部化学科  
▶ 東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士  
課程 ▶ 同博士課程

##### 【職歴】

岡崎国立共同研究機構分子科学研究所関連領  
域研究系 助手 ▶ 大阪府立大学総合科学部物質  
科学科 助教授 ▶ 同大学院理学系研究科物理科  
学専攻 准教授 ▶ 同教授

# Personal History

## ● 学生時代 (~1996)



### ● 学生時代

小さい頃は、内気でおとなしい子どもでした。理系に進路を決めたのは高校生の頃で、語学と数学が好きだったので、理系ならどちらも生かせると考えました。大学に入学した頃、将来は研究者になりたいと漠然とした思いがありました。具体的に考えるようになったきっかけは、学部3年生の夏に新聞の科学欄の片隅に「有機超伝導」という言葉を見つけたことでした。「有機化合物で(超伝導という)物理の研究がしたい」と考えるようになりました。

卒業研究では、高分子化学研究室の中原先生が導電性有機薄膜のテーマを新しく作って下さり、物性研究に不可欠な低温実験ができる東京大学物性研究所の外部受験も後押しして下さいました。試料合成のため有機化学の研究室で2週間ほど有機合成の基礎を学ばせていただいたことが、後々役に立ちました。

大学院では、有機化合物で磁石を作る「有機磁性」の研究室に進学しました。より未開拓の研究分野で、黎明期に立ち会って面白そうと思ったからです。その研究室の物質合成と物性測定のパランスが自分のイメージに近かったこともあります。幸運なことに、入学直後に所属する木下研究室で世界最初の有機磁石が発見され、この分野の研究が盛んになっていくのを目の当たりにしました。

当初の自分の予想とは少し異なる展開だったことが、今こうして物理の分野で研究を続けることにつながっています。

## ● 社会人時代 (1996~)



### ● 社会人時代

「細越さんは女性だから、就職では苦労すると思うよ」大学院博士課程入学試験の翌日から、指導教授にご心配いただきました。幸運なことに、分子科学研究所の助手(今の助教)に採用され、有機磁性研究を続けることができました。

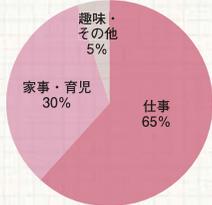
世代交代の時期でもあり、一学年下にはライバルが多く、タイミングが良かったと思います。分子研最初の女性教員でした。文部科学省直轄の国立共同利用研究所で、数多くの先端機器を利用しながら研究に専念できる環境ですが、流動性の方針から6年間を目的に転出を推奨されるポストです。

5年目頃から公募に応募を始め、あるとき思い切って物理系のポストに初めて応募し採用されたのが大阪府立大学でした。有機磁石の発見は化学の常識を覆すものとして注目されましたが、物理学的観点から発展させたいと、物理科学科で一から研究室を立ち上げることにしました。新物質開発は我が研究室の看板として、物理科学科でも有機合成を続けています。「新しい物質が新しい科学を拓く」という信念です。30年後には物理の研究室で有機合成が当たり前になってほしい、という野望を持っています。研究室を軌道に乗せるのに5年ほどかかり、最近ようやく新物質合成を進めながら物性測定にも力を注げるようになりました。

研究室スタッフや学生の協力の賜物です。現在は自分を含めて3人のスタッフで学生16人の指導をしています。

## Work Life Balance

大学での研究は、内容と場所を同時に選ぶことが案外困難です。分子研に就職して1年後に結婚しましたが、週末のみを共に過ごす週末婚を1年、夫の海外勤務4年を経て、共に大阪で職を得ることになるとは想像もしていませんでした。晴れて夫婦同居が叶い、子どもにも恵まれました。研究室構成員一人ですべてこ舞いし、正直なところ、研究者生命の危機すら感じました。2005年に助教と卒研究生・院生が加わってから、ようやく研究室が機能するようになりました。子どもの送迎を考え大学から歩いて通える距離に住み、夫には1.5時間の通勤を強いているものの、京都の姑やファミリーサポートセンターの協力もあり、なんとか続けられています。一番手のかかる乳児期が過ぎて子育ては続くので、なかなかパランスが取れず試行錯誤を続けています。そのうち時が解決してしまうのかもしれませんが。



### 将来の目標・夢

分子の多様性は無限であり、特別な機能を持つ分子の設計戦略は研究の要です。

科学の教科書に新しい1頁を刻むべく基礎研究を行っています。その先には室温で電気を流す有機磁石(を世界で最初に作る)があると思っています。

### 後輩へのメッセージ

夢に向かって努力を続ければ、多少形は変わっても願いは叶うと思います。研究の世界に限らず、社会生活一般において、自分らしさが発揮できたら素敵だと思います。

大阪府立大学  
大学院理学系研究科生物科学専攻/  
生命環境科学域自然科学類  
教授

森 展子 博士(学術)

Profile

【学歴】

広島県立尾道北高等学校 ▶ 大阪大学薬学部

【職歴】

大阪府立放射線中央研究所 研究員 ▶ 大阪府立大学先端科学研究所 助手 ▶ 同講師 ▶ 大阪府立大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授

## 身を削ってもやる理由は、 成果を手にしたときの 達成感でしょうか

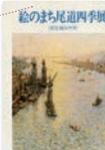
豊かな自然の中で子ども時代を過ごしたことで、生物学を志向するようになりました。30代で研究の成果が国際誌に載り、40代で学位を取得。欧米で研究する機会があれば、リスクもありませんが、ぜひチャレンジすることをお勧めします。

### My favorite



『卯の花』(写真左)

尾道のアマチュア画家が描いた尾道水道の絵です。この絵を見ると、「海が見えた。海が見える。5年ぶりに見る尾道の海は懐かしい。」(放浪記)と書いた作家林芙美子が、列車の窓から見た尾道の海を思い浮かべます。



『絵のまち尾道四季展』

好きな花のひとつです。

# Personal History

## ● 学生時代（～1972）

～1972  
大阪大学  
薬学部  
卒業

### ● 学生時代

私の生家は、瀬戸内海の向島にあります。島の中央に山があり、日立造船所のドックがある尾道水道側と因島側に分かれ、私の生家は因島が見える地区にあり、みかんや花を栽培する農家でした。1学年に20人ぐらいしか生徒がいない、海のそばの小さな小学校で学びました。

島には、広島大学の臨海実験所があり、情熱に燃える若い先生の引率で、海の生物を見学させてもらった記憶があります。こんな豊かな自然の中で子ども時代を過ごしたことで、生物学を志向するようになったように思います。しかし、高校生活は灰色で、大学進学はそこから抜け出すためでした。文系か理系か迷った末、理系に進んだのですが、当時は、理系では物理・化学を履修するのがまじりでした。また、女の子は手に職をという親や教師の勧めで、薬学部に進学、ますます生物学から遠ざかりました。大卒で公務員試験を受けて、大阪府立放射線中央研究所（大放研）に研究職で勤務することになったのは、本当に偶然です。

## ● 社会人時代（1972～）

1972～  
大阪府立  
放射線中央研究所  
研究員

1973  
結婚

1974  
第1子出産

1978  
第2子出産

1990～  
大阪府立大学  
助手

2001～  
大阪府立大学  
講師

2005～  
大阪府立大学  
教授

### ● 現在の仕事・それを選択した理由

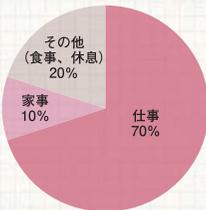
もともとは、研究職を望んで選択したわけではありませんでした。所属の部署に、マウスを使った白血病研究のグループがあり、その周辺で独自に行った研究の成果が、30代半ばで国際誌に載りました。一つできればもう一つというふうにして、40過ぎて学位（論文博士）を取得しました。今の常識から考えると遅いスタートです。学位取得の少し前に研究所は廃止され、大阪府立大学先端科学研究所に改組されました。このとき大学の助手になったのですが、これも偶然です。

先端研では、研究だけに没頭することができました。細胞の生理的なターンオーバーの仕組みであるアポトーシスの分子機構が全くわかっていなかった時期に、アポトーシスの感受性にマウス系統差があることを独自の方法で示し、国際交流基金をいただいて、オランダ癌研究所で研究をすることができました。発がん感受性の遺伝解析を進めている研究室でした。滞在中の成果は、3本の論文として遺伝学の国際誌に掲載されました。このときの経験が、現在の研究課題の一つである「発がん感受性の遺伝解析」の基礎になっています。また、最近のもう一つの研究課題は、マウスを飼育中に偶然見つけた「水頭症と大脳発生異常を示すミュータントの原因遺伝子の同定」です。この研究成果は、今年のアメリカ病理学会誌に論文発表しました。この遺伝子の細胞内機能の解明は、現在も続けています。

## Work Life Balance

就職してすぐ子どもが生まれました。子どもが小さい頃は、毎日、保育所の送迎と食べさせることで忙殺されておりました。子どもはよく病気をし、休暇が不足しました。それでもなんとか仕事を辞めずにきたのは、ルーチンワークがない職であったからと感謝しています。若いころは、起きている間のほとんどがライフでした。30半ばから、ワークに傾斜、40ぐらいから、熱があっても起きている間はワークに逆転しました。オランダ癌研究所で過ごした時期は、たぶん、家庭破壊の罪で世間に後ろ指をさされていた（誰かに言われました）でしょうが、人生で最も充実した楽しい時期でした。

50ぐらいで更年期のためか体調がおかしくなり、無理がきかなくなりました。定年を目前にしたこの頃では、二度と従前のような生活スタイルには戻れないとあきらめ、ワークを減らし休息部分を増やしています。



### 将来の目標・夢 *dream*

まもなく定年を迎えます。もう充分面白い半生を過ごしました。近頃、無理をするとすぐ体に変調をきたします。あと少しの間、やり残した仕事を片付けて、そのあとは、庭いじりや小旅行、ここ何十年かしていない料理などもして、孫の成長を楽しみにしながら、余生を静かに過ごすつもりです。

### 後輩へのメッセージ *message*

欧米で研究する機会があれば、リスクもありますが、ぜひチャレンジすることをお勧めします。女性研究者といわれることもなく、対等に働くことができます。もう一つ、理系の研究は努力と辛抱、持久力が必要です。身を削ってもやる理由は、成果を手にしたときの達成感でしょう。

偶然のように訪れるチャンスや出逢いにオープンマインドでいることが  
 キャリアの幸運につながりました。

困難は新しいステップへの  
 チャンスでした



大阪府立大学工業高等専門学校  
 総合工学システム学科メカトロニクスコース  
 准教授

中谷 敬子 博士(工学)

Profile

【学歴】

大阪府立四条畷高等学校 ▶ 大阪女子大学学芸学部基礎理学科 ▶ 大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻博士後期課程

【職歴】

日立造船株式会社 技術本部技術研究所 ▶ 大阪大学工学部機械工学科固体力学研究室研究生 ▶ 日本学術振興会特別研究員(DC2) ▶ 大阪府立大学工学部航空宇宙工学科 助手 ▶ 文科省在外研究員(短期、アメリカ合衆国 ブラウン大学工学部 客員研究員)(兼任) ▶ アメリカ合衆国 ブラウン大学工学部 客員研究員(兼任) ▶ 大阪府立工業高等専門学校総合工学システム学科 システムデザインコース 助教授 ▶ 同准教授 ▶ 大阪府立大学工業高等専門学校総合工学システム学科 メカトロニクスコース 准教授(大学への移管のため)

My favorite



ロボット工作の笑顔



科学実験教材(3D 磁力線)

『子ども向けの科学実験教室』

趣味と実益を兼ねた楽しみです。写真(右)は、ゼムクリップを数ミリ長さに切ったもので、磁石周りの磁界を三次元で見る実験です。左は小学生向けのロボット工作教室での参加者の笑顔。

# Personal History

● 学生時代 ● 社会人時代



## 学生時代

子どもの時から、考える前に走り出すタイプでした。思えば、困難は新しいステップへのチャンスでした。その度に、人に出逢い、導かれ、支えられて、自分のやりたいことに向かって進んで来られた気がします。最初の挫折は大学入試。志望大学の合格点に到底及ばなかった私は、志望大学ではなく志望する学科である物理で選びました。偶然に入学した大阪女子大学が、今に至る私の生き方の、価値観の基盤です。「女性学」という科目が必須で、大阪女子大学に大学院が無かった時代に旧帝大で学位をとって、母校で教鞭をとっておられる女性教員が多く、「女性も責任ある仕事を持ち社会に貢献すること、誇り高く生きること」を、実践と教育の両面から教えていただきました。

卒業研究は念願の実験物理学教室へ。しかし、私は全く実験に向いていなくて、同じゼミの人たちには実験でベアを組むのを恐れられました。酸素ボンベのバルブを反対側に回して、酸素漏れで騒ぎを起こしたりもしました。結局、当時助手であった東村武則先生の下でコンピュータを使った理論物理のテーマに転向し、たちまち計算の虜になりました。東村先生には、その後会社を辞めて大学院進学を望んだ時にも、大変お世話になりました。先生がおられなければ、今の私はありません。

## 社会人時代

大学卒業後は企業の研究所に就職しました。構造物の強度計算がメインでしたが、工学の専門知識はゼロでしたので、研究員の方々に学びました。造船工場、設計部、山奥のダム、製鉄所、女性研究者も多く何もかもが新鮮でした。でも、次第に自分の力の無さを痛感し学び直すことを望みました。大学院探しは難航し、大阪大学の北川浩教授に相談に押しかけました。先生は、親身になって私の人生を考えてくださいました。最終的には、1年間の研究生生活の後、進学し、学位をいただきました。北川浩先生は人生の恩人です。

「30歳」「女性」「既婚で子どもなし」で、職探しには苦労しましたが、大阪府立大学の助手に着任、その後、大阪府立高専に移りました。まいど一号プロジェクトの府大生、物づくりに打ち込む高専生の姿に、自ら学び成長する力の強さを感じました。卒業した学生から、進学や就職の相談も受けるようになりました。

その後、子どもが4人に増え、女性のキャリア構築の研究を志向したことは自然な流れでした。現在は、理(工学)系で研究・教育を続けている背景を活かし、現在進行系の当事者の一人(?)として、「女性技術者・研究者のキャリア発達のための場」の実践的研究に取り組んでいます。目の前のキャリアだけを考えるのではなく、人生をトータルに考えて自身の想いを大切にする生き方こそが、キャリア構築に大切だと感じます。

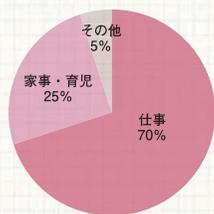
## Work Life Balance

子どもが生まれるまでは、結婚後も、がむしゃらに研究していました。ワーク・ライフ・バランスの必要性も感じずに。最初の出産は、大学着任1年目。出産1週間前まで働き、産後4カ月で復帰しました。「発熱のため迎えを」との保育園からの電話には、仕事に差し支えるかと不機嫌になる、未熟な母でした。深夜までペーシッターを頼んで研究するなど、その日常はいずれ破たんするバランスでした。

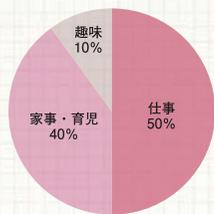
大きな転機は、1年間のアメリカ在外研究員期間中の二男の出産でした。陽気で優秀な研究者達は疲労オーラがなく、すべてに自然体でした。この二男の新生児期の大病もあり、同志と呼ぶべき我がパートナーの支えのもと、私の人生観は大きく進化し、やっと子どもがいる環境も含めた自分を受け入れました。

4人の子どもの得て今わかった事は、「自分にとって大切なこと、想い(=内的キャリア)」がはっきりすれば、それに沿うような納得の働き方・生き方が見つかるということ。今、自己理解の上の自然体が、いい感じです。

(在外研究前(子ども2人))



(それ以降)



## 将来の目標・夢

これまで機械工学の分野で女性研究者として研究に携わってきました。今、理系分野での女性研究者の現状を当事者として共感できる立場で、女性研究者・技術者のキャリア発達のための研究に取り組んでいます。全くの畑違いの研究分野ですが、20年近く理系分野で実践してきた経験から、その立場を理解できる強みを活かせると考えています。理系と文系の交差点に立つ私だからこそできる学生へのキャリア教育と、働く女性を笑顔にできるキャリア開発・支援の研究・実践をしていきたいです。本も書いてみたいと思っています。

## 先輩へのメッセージ

自分の可能性を信じて、自分が大切にしたい事とか想いを見つめて、見つけて、そしてそれを大切に、夢に向かってチャレンジしてください。そうすると、不思議な、半ば運命的な偶然の出逢いやチャンスによって夢が実現するものです。一緒に夢を目指す仲間が見つかったら、力もグレードアップ! 素敵な偶然をつかむポイントは、オープンマインドとトライする勇氣、そして、仲間ネットワーク!



株式会社ユーズ  
代表取締役社長  
染谷 ゆみ

Profile

【学歴】

明星学園高等学校 ▶ 青山学院大学経営学部  
第二部経営学科

【職歴】

株式会社インターナショナルツアーズ(現 株式会  
社HIS) ▶ 有限会社染谷商店 ▶ 同常務取締役  
▶ 株式会社ユーズ設立 代表取締役社長 ▶  
「TOKYO油田2017」プロジェクト開始

## 私の仕事は、人々の生活のなかに 新たな価値を見出すことです

アジア貧乏旅行が私の生き方を決定づけたのです。廃食油から軽油代替燃料を開発することで、「ゴミ」を「エネルギー」へと変えました。志を同じくする人たちとの協働を通じて、循環型社会へと「価値転換」していきたい。

### My favorite



【落語】

今、落語に凝っています。落語は庶民のなかから生まれ育まれてきたので、「支配者たち」(武士など)に対する痛烈な皮肉とともに弱者を包み込む視点があるんです。社会的弱者にも居場所がちゃんとある。そういう理想が描かれていて、本当に奥が深いです。

## ● 学生時代

## ● 社会人時代

1986~1987  
アジアへ  
貧乏旅行

1988~1990  
株式会社  
インターナショナル  
ツアーズ(現 株式会社HIS)  
香港支店勤務含む

1991~2002  
有限会社  
染谷商店  
1995  
常務取締役就任

1997~  
株式会社ユーズ  
設立  
代表取締役社長就任

~2007  
青山学院大学  
経営学部  
卒業

2007~  
「TOKYO 油田2017」  
プロジェクト開始

2009  
雑誌「TIME」に  
「Heroes of the  
Environment」の1人  
として取り上げられる

## ● 学生時代

私は東京三鷹市の明星学園高等学校という制服のない高校に通っていました。制服がないというのが、高校選択の唯一の理由といっても大げさではありません。中学の制服、とくに女子の制服が大嫌いでした。当時はどの高校も制服がありましたから、制服のない明星学園高等学校は珍しい高校でした。生徒会長をしていましたが、勉強ができるから会長に推されたというわけではありません。まあ、制服嫌いの延長ですね。みんなにとって「当たり前」のことで、納得できないと素通りできない性格でした。みんながどこかで「あれ？」と感じていることを代弁して先生に聞く生徒だったので、今思うと、先生方にとっては扱いにくい生徒だったと思います。「変わり者」だけれど、人気があったのかもしれない。

大学に行くという選択肢もなんだかすんなりと入ってこなかった。勉強して大学に行ってどうするんだろうと思っていたような感じでした。両親もある種の放任主義でしたから、バイトでためたお金で高校卒業後にアジアに行くと言ったら、クレジットカードを作ってくれました。1986~1987年頃の話で、日本経済は成長の一途。アジアにも、欧米・日本の資本の波が押し寄せ、それまでの生活に大きな変化が生じ始めているころでした。この貧乏旅行がそれ以後の生き方を決定づけた、と言えるでしょう。

## ● 社会人時代

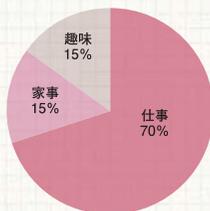
2009年、TIMEの環境特集で「リサイクラー」として紹介されたことがあります。リサイクルする人、という意味です。私の仕事を一番的確に表現していると思っています。使用前/使用済という二分法ではなくて、使用したものをまた次の「使用前」にして人々の役に立つものとする。この「使用前」というのは、「戻す」というばかりではなく、まったく異なる価値を持つものに変えるということも含みます。循環型社会というのは「価値転換」だとも思っています。私の場合は、家業である廃食油処理がまさしくリサイクルだと気づいたのが、アジアの旅から戻ったときでした。つまり、リサイクルという言葉が出てくる前からリサイクルはありました。しかし、それが社会にとって重要なことだという認識がなかった。使用前/使用済という二分法からみれば、使用済ではたいした価値がない。その価値を高めるために、廃食油から軽油代替燃料を開発し、廃食油を「ゴミ」からエネルギーへと変えました。でもそれだけでは不十分なんです。人々が使用前/使用済という二分法から脱却しないと、普及には至らない。ちゃんとリサイクルされ「商品」となったものを購入する。そうしたものに価値を見出してもらって、それが今の私の仕事です。



## Work Life Balance

私の場合、ライフのなかにワークが入っています。うまく分けて考えることができないんです。だいたい、家業の一部を継いだのですから、系列会社は父親の会社だったり、弟の会社だったり。欧米ではあまりみられないことですが、日本ではけっこう多い。とくに零細企業はそうです。夫が社長で妻が専務。そんな会社でワーク・ライフ・バランスと言われても、ピンときません。

私の仕事は生活のなかの価値を転換することですから、余計にうまく分けられないのかもしれない。仕事も「友人」たちとの協働から広がっているような気がします。「どういう暮らし、どうい社会を目指すか」で意気投合しないと、一緒に仕事をする気すら起きませんから。「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は、自営業者には当てはまらないのではないのでしょうか。



## 将来の目標・夢

まだまだ経営がうまいとは言えません。社員にも苦勞のかけ通し。それでも、一緒に「循環型社会」を創ってこうという志を持つ仲間との出会いは増えてきました。資源を使い果たすだけの、これまでの拡張型社会に対する危機感が高まっているのだと思います。「仲間」は世界中にいるはずなので、もっと出会えるような経営がしたい。

## 後輩へのメッセージ

好きなこと、したいことがなかなか見つからないという方が多いのではないのでしょうか。とりあえず、「ご縁」があった事柄、「ご縁」があった会社で、あなたに求められていることを一所懸命にやってみてください。人生は設計通りにいかない、ということも頭に入れておいてください。設計通りだったら、あまりつまらないです。

## 大学の再受験や、社内公募制度に 挑戦して、今は希望の仕事をしています

大学は理学部に進んだものの、再受験して工学部へ。好きなことを学ぶことができる  
幸福な学生時代でした。「やらない後悔よりも、やった後悔」をモットーに、楽しか  
ったと思える仕事人生を送りたいです。



### My favorite

#### 【ビオラ】

昨年一目惚れして、衝動買いしちゃった  
(!?) 愛器のビオラ。この楽器の持つ、  
ふくよかで艶っぽい音色を引き出せる腕前  
になることが目標ですが、道のりはまだまだ  
遠そうです…

シャープ株式会社 CS・環境推進本部  
品質技術部 解析技術 Gr.  
副参事

### 宮崎 陵子

#### Profile

##### 【学歴】

滋賀県立膳所高等学校 ▶ 大阪府立大学工学  
部金属工学科

##### 【職歴】

シャープ株式会社電子部品事業本部 ▶ 同係長  
▶ シャープ株式会社CS・環境推進本部 ▶ 同信  
頼性技術センター解析技術 Gr. 副参事 ▶ 同品  
質技術部解析技術 Gr. 副参事

## ● 学生時代 (～1991)

～1991  
大阪府立大学  
工学部  
卒業

1991～  
シャープ株式会社  
電子部品事業本部

1995  
結婚

2003～  
シャープ株式会社  
電子部品事業本部  
係長

2004～  
シャープ株式会社  
CS・環境推進  
本部

2007～  
シャープ株式会社  
信頼性技術センター  
解析技術 Gr.  
副参事

2012～  
シャープ株式会社  
品質技術部  
解析技術 Gr.  
副参事

## ● 学生時代

小学生の頃から理科が大好きで、昆虫・植物の標本作り・鉱物収集・電気工作・星の観察等何でも広く浅く手を出し夢中になっていました。本も好きで、学研の『秘密漫画』シリーズと『ドリトル先生』にはまり、漠然と将来は博物学者になりたいと思っていました。

その後、生物系よりも物質の構造についての興味が強くなり、大学では物理か地学をやりたいくて、理学部の地球科学科に進学しました。しかし、応用範囲が広い工学部に行きたくなり、再受験という回り道をしてしまいました。物性を学びたかった私にとって、金属工学は物質の物理的・化学的両方のアプローチができ、ミクロの基礎から実際のモノづくりまで学べる非常に楽しい学問だったと思います。

高校時代は『国語で受験したい』と思う程、数学が大の苦手で、受験では本当に苦労しましたが、大学での数学は何とかなるものです。数学が苦手なので理系はダメと思っている人は多いと思いますが、学問への興味とやる気があり入口さえ突破できれば、きっと大丈夫ですよ。

大学時代には色々なアルバイトをし、長期休みには鈍行列車に揺られて国内を貧乏旅行するのが好きでしたが、専門科目や実験・実習もとても楽しみました。4年の時に所属した研究室でも、装置の組立から徹夜実験など、疲れるけれどワクワクする事ばかりで、休みはあまりなくても幸福な学生時代でした。そんな充実した時を過ごすことができた府大にはとても感謝しています。

## ● 社会人時代 (1991～)

## ● 社会人時代

大学院に行くことも考えましたが、入学前に足踏み期間があったこと、超売り手市場の時代だったため学卒で就職しました。当時から技術系女性比率が比較的高く、仕事を続けやすい環境であった事が、電機メーカーに決めた理由です。

入社して最初に配属された部署では、衛星放送用アンテナの構造設計を担当しました。材料研究・開発の仕事を希望していた私には少し残念な配属でしたが、金属やプラスチック等の部品設計から最終製品として量産するまでの全工程に深く携われたことは、メーカー技術者としてとても貴重な経験となりました。

ただ、女性技術者が多いと聞いていたのに、この分野には全く女性の先輩はおらず、当時の上司は扱いに随分困られたのでは、と今になって思います。

当時は新製品を出す直前は深夜までの仕事、また、土曜出勤が当たり前だったり、初めての海外出張で、英語もお粗末なのに量産立上のため2週間メキシコ工場へ…など、不安になったりキツイことも多々ありましたが、男性の先輩方と同じ仕事の与え方をしてもらえたことは、私にとっての財産です。

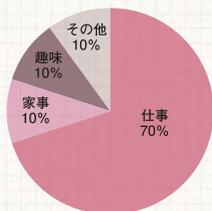
12年間、設計の仕事をした後、社内公募制度に挑戦し、入社当初から希望していた材料解析や、品質をよくするための仕組み作りを行う部署に異動し、現在も勤務しています。日進月歩の技術、管理職としてのマネジメントなど、20年以上勤務してもまだまだ力不足で学ぶ事の多い毎日です。

## Work Life Balance

バランスについて考えたことはあまりなく、その時にやりたいようにやってきました。しかし、これは家族の理解と助けがあってできることなので、常に感謝の念を忘れないよう肝に銘じています。

20～30代前半は今よりも仕事比率が高かったのですが、一度体調を崩したことがあり、心と身体になるべく負担をかけないよう心掛けています。とは言っても、仕事で無理をせざるを得ない場合も多々ありますが、「ストレスに強く、短期的には無理がきく」といった自分の特性を把握することで、バランスをうまくとるようにしています。

興味のある技術の本を読んでワクワクすることをはじめ、美味しいものを食べたり呑んだり、美術館に行ったり、楽器を弾いたり、舞台を観たりといった趣味の活動が、仕事を頑張ろうという原動力になっています。これからも興味のあることにはできる範囲で挑戦したいと思います。



### 将来の目標・夢

仕事では、私の持っている力を人の役に立つことに使えばいいな、と思っています。

「やらない後悔よりも、やった後悔」をモットーに、色々あったけど楽しい仕事人生だったと最後に思いたいです。仕事を引退する時が来たら、カルチャースクール三昧で、フラダンスから七宝焼きまで制覇することがささやかな夢です。

### 後輩へのメッセージ

社会に出ると、自分の希望や夢とは異なる立場に置かれる事が多々あります。どんな場合でも、そこで興味が持てる事を見つけられた方が人生楽しいと思いませんか？

そのためには、「好奇心」と「観察力」と「柔軟性」を持つことを心掛けて欲しいと思います。最初からNoと言わずに、まずは何でもやってみましょう！

文部科学省 科学技術人材育成費『女性研究者支援モデル育成』事業

# 元気！ 生き生き 女性研究者・公立大学モデル

大阪府立大学では、平成22年度～24年度の3年間、女性研究者・院生・学生のための支援プログラムを実施しています。

## プログラムの目的

### 理系女性研究者の増加

- 事業終了までの3年間で理系女性研究者数を平成21年度の30%増やす。
- 理系博士課程を修了する院生の女性比率を25%まで引き上げる。

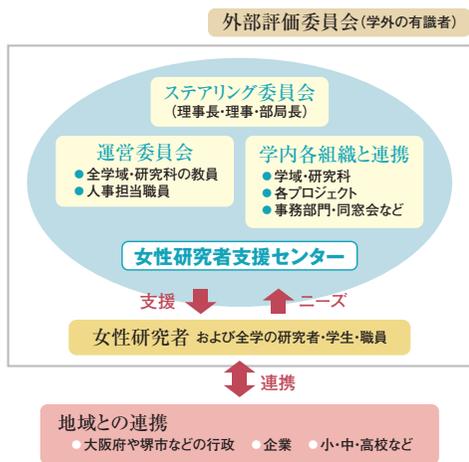
### 環境整備

- 相談窓口・メンター制度・保育室を開設する。
- 出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のために研究支援員を配置する。

### 地域貢献

- ロールモデル・バンクの構築と活用により地域に貢献する。

## 組織・実施体制



## 大阪府立大学における多様な人材活用推進の基本方針

大阪府立大学が公立大学としての存在意義を高め、地域に信頼される存在となるためには、地域社会や産業界を牽引する人材が本学から持続的に巣立ち、広く世界に翔く(はばたく)ことでその証を立てなければならない。それらを追求するため、日本のみならず世界の研究型大学の変革の起点となり、地域に信頼される知の拠点となるべき基本理念を表す言葉として、「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点」を掲げている。

本学が目指す大学像の実現には「多様」「融合」「国際」という3つのキーワードがある。革新的な知を創出する拠点となるためには、年齢・性別・国籍の違いを超えて、異なる価値観や経験・背景をもつ「多様」な人材が集い、互いに知的触発を受ける環境が不可欠である。そのうえで多様な人材が切磋琢磨し価値を「融合」することで新しい知を創出し、そして「世界」に発信する。

したがって本学は、多様性の実現こそが今後の教育研究の活力の源泉であるとの認識の下、若手研究者や外国人研究者、女性研究者がそれぞれの能力を最大限に発揮できるよう、本学構成員の意識改革、環境の整備、支援相談システムの構築などを推進する。そして、活力あふれる「知」の創造の場を形成し、本学の理念を実現する。

「多様な人材活用  
推進の基本方針」策定  
(平成21年度)

※左下参照

女性  
支援

## 大学内のみならず、地域において

### 1 支援のための環境整備

推進体制を整えるとともに、女性研究者への直接支援などを行っています。

#### ▶ 研究支援員の配置・在宅勤務支援

妊娠・出産・育児で時間の取れない女性研究者に対して、研究を補助する支援員を、センターから派遣します。また、在宅勤務の支援として、webカメラ付きパソコンの貸与を行っています。

#### ▶ 相談窓口

女性の研究者や職員、学生の困ったことや悩みの相談に対応しています。

##### ● 支援センター相談

研究者や研究者になろうとする女性で、研究を続けていく上で困ったこと、悩んでいることの相談に対応しています。

##### ● 女性の健康相談

心や体の悩みについて助産師が個別相談やミニ・セミナーを行っています。

##### ● メンター制度

研究を続けていく上で色々な悩みを、先輩の研究者に相談できる仕組み作りをしています。

#### ▶ 保育施設の設置

平成23年度に学内保育施設「つばさ保育園」を開設しました。



#### ▶ 女性研究者のネットワーク構築

女性研究者同士がネットワークを構築できる環境を作ります。

##### ● 女性研究者懇話会



##### ● 女性研究者支援SNS

女性研究者を中心として、時間や場所に関係なく交流し、情報交換を行っています。

# 研究者の事業

## 波及効果

- 全学的な改革による、理系女性研究者の研究水準の向上と、それを支える本学構成員の意識改革
- 大阪府の施策の活用を通して、地域に貢献することによる女性研究者のロールモデルの普及

## 多様な人材活用推進

平成25年度以降も、継続的に推進していきます

## 女性研究者の活躍を目指します

## 全学的システム改革

### 2 全学的意識改革

女性研究者が研究を続けていくことへの理解を進めます。

- ▶ 公開セミナーやシンポジウムの実施
- ▶ 学域・学部・研究科のオリエンテーションや授業等での事業概要説明
- ▶ 子育て応援ピンバッジ・シール・キャンペーンの実施
- ▶ 「会議は17時まで」キャンペーンの実施



### 3 キャリアパスの構築と裾野拡大

女性が研究者として活躍するキャリアパスを構築すると共に、理系を志す女性の数を増やします。

#### ▶ ロールモデル・セミナーや、サイエンス・カフェの実施

ロールモデルとなる、社会で活躍する理系の女性研究者から話を伺うことで、多様なキャリアパスを考える機会を提供します。



サイエンス・カフェ



ロールモデル・セミナー

#### ▶ 理系女子大学院生チーム「IRIS(アイリス)」による小・中・高校生を対象とした裾野拡大事業の実施

- 子どもサイエンス・キャンパス
- オープンキャンパス「めざせ! 理系女子コーナー」
- IRIS活動報告会の実施や活動報告集の発行 他



IRISのロゴマーク



IRIS任命式



活動報告集

#### ▶ ロールモデル集の発行

#### ▶ ロールモデル・バンクの構築

社会で活躍する理系の女性に登録していただき、後輩たちに、キャリアパスの構築やワークライフバランス実現のための情報を提供します。



ロールモデル集



子どもサイエンス・キャンパス



オープン・キャンパス

#### ▶ 「世界に翔け! 理系女子大学院生」表彰制度

理系女子大学院生を対象に、国際学会等で発表するための援助を行う表彰制度を行っています。



公開審査でのプレゼンテーション

### 4 サポート基盤の整備

#### ▶ 全学的な連携・協力体制

事業を進めていくため、学内の各部門との連携・協力体制を強化します。

#### ▶ 大阪府・堺市など、地域との連携

公立大学であることを活かして、大阪府や堺市をはじめとして地域との連携を深めて、地域貢献を図っていきます。



### Profile

京都大学大学院文学研究科修士課程単位取得退学。文学修士。橘女子大学、武庫川女子大学非常勤講師、京都大学助手ののち、大阪女子大学人文社会学部教授。大学統合により、2005年より大阪府立大学人間社会学研究科教授。専門は家事労働論、ジェンダー論、女性学。共著『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、1997年）、訳書 G.F.ダラ・コスタ『愛の労働』（インパクト出版会、1991年）他。

## 女性研究者支援事業の これからに向けて

早いもので、3年間の支援事業も最終年度を迎えました。この取り組みが契機となって、学内の空気はかなり変化してきました。理事長をはじめとした全学的取り組みとして、女性の研究活動を応援する姿勢を明示したことは、とても意義があったと思います。

しかし文部科学省科学振興調整費による女性研究者支援事業は、本学の応募年を最後に打ち切れ、これに続く「女性研究者育成システム改革加速プログラム」も終了しました。現在、後続の支援事業は規模を縮小して実施されていますが、国家的取り組みとしては、何とも中途半端なことになってしまったのは、残念なことです。

本学は公立大学としての初の採択であり、公立大学モデルとしての特色を強く打ち出した点が評価され、採択に至ったと理解しています。その特色とは地域との連携による裾野拡大事業で、女性研究者支援センターが献身的に撒いてきた裾野拡大の種が大きく成長する時期がやがて到来することでしょうが、教育的努力の成果を確かめるには3年間はあまりに短いのです。大阪府立大学は理系がメインで、構成が著しく男性に偏った大学であり、この環境をジェンダー平等なものへと変えていくには、中長期的取り組みが必要です。採択期間終了後の大学独自の事業継続に期待しています。私がセンター長を務めている女性学研究センターも、その一翼を担っていく所存です。

最後に意欲的な活動に取り組んでおられるIRISの皆さん、様々な制約の中ですばらしい働きを見せておられる女性研究者支援センターの教職員のみなさんに、心からの感謝と慰労の意をお伝えしたいと思います。

大阪府立大学  
人間社会学研究科 教授／  
地域連携研究機構 女性学研究センター長  
女性研究者支援センター 運営委員会副委員長  
伊田 久美子





**公立大学法人 大阪府立大学  
女性研究者支援センター**

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町1-1 (中百舌鳥キャンパス B16棟)

TEL・FAX. (072) 254-9856

E-mail. [w-support@ao.osakafu-u.ac.jp](mailto:w-support@ao.osakafu-u.ac.jp)

URL. <http://www.opu-genki.jp/>

発行：平成24年11月

文部科学省 科学技術人材育成費「女性研究者支援モデル育成」事業